日時:2024年11月20日(水)15:10~16:10

場所:国連会議場・ESCAP ホール

円卓会合(d)分断を埋め、重要な移行を円滑にするジェンダー変革的行動を通じたジェンダーの平等の加速

大崎麻子 CSW 日本代表 ご発言

発言要領 最大3分

●発言の機会をいただき感謝。

●日本は人口構造の転換期に直面しており、それはケアエコノミーとも関連している。近年、若い女性の地方から都市部への人口移動が加速している。その背景には、家庭や職場、地域社会に深く根付いたジェンダー・バイアスや固定観念があると考えられている。そこで、人口約7万6千人の地方都市である兵庫県豊岡市が、この人口移動に対応するために行ったマルチステークホルダーによる画期的な取組を紹介したい。

●2018年、豊岡市は、当時の市長の強力なリーダーシップの下、ジェンダー・ギャップをなくすための取組を立ち上げた。

●まず、豊岡市商工会議所とパートナーシップを結び、地元企業の企業文化を変革するための「働き方改革推進協議会」を共同で立ち上げた。同協議会は、企業経営者が仕事の分離やジェンダー・バイアスがいかに女性の意欲を削ぐかを学ぶ場を提供し、雇用主が、例えば人事評価や勤務形態の変更によって、構造的な障壁に対処するための変革的解決策を見出すのを支援する。多くの企業では、管理職や技術職に占める女性の割合や、育児休暇を取得する男性の割合が大幅に増加するなど、迅速かつ具体的な成果を上げている。

●次に、豊岡市は、家庭、地域社会、学校教育におけるジェンダーの役割と規範に対する認識を変革するため、全社会的イニシアティブを開始した。企業、小規模地区、教育の関係者が参加する、ジェンダーバランスのとれた多世代委員会を開催し、10年後の男女格差解消に向けたロードマップを策定した。こうして、2021年に10年計画として「豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略」が策定された。同戦略は、様々な男女別データの徹底的なジェンダー分析に基づいて策定された。ユニークな取組としては、豊岡市のジェンダー・ギャップについて率直に語り合う啓発ツールとしてのマンガの制作や、無償ケア労働の平等な分担について夫婦で話し合うためのコミュニケーション・

シートの作成などがある。

●ある小規模地区では、シニアの男性リーダーが、複数の世代の女性と男性を集め、ジェンダー規範がいかに関の選挙を制限してきたかについて経験を共有し、それを克服するための行動について話し合うプロセスを開始した。この地区では、初めて指導的地位に女性が任命された。他の地区もそれに続いている。

●これはまた、複数の移行に対処する方法として、男性リーダーが多様な関係者を巻き込み、男女平等を推進する役割を果たすことができるという好例でもある。

●ご静聴ありがとうございました。